

令和4年9月12日

市議会議員選挙の実施時期に 関する調査特別委員会

阿久根市議会

1 会議名 市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会

2 日時 令和4年9月12日（月）

午前10時開会

午前10時48分散会

3 場所 議場

4 出席委員

濱崎國治委員長、濱之上大成副委員長、竹之内和満委員、
川上洋一委員、濱門明典委員、白石純一委員、
濱田洋一委員、竹原信一委員、仮屋園一徳委員、
中面幸人委員、牟田学委員、岩崎健二委員、
木下孝行委員、山田勝委員

5 事務局職員

次長兼議事係長 上脇重樹、議事係主査 東岳也

6 参考人

林田弥生氏（陳情者）

7 会議に付した事件

- (1) 陳情第10号 阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情
- (2) 陳情第11号 市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情
- (3) 陳情第15号 市議会議員選挙と市長選挙を同日選挙とする為に市議会の自主解散を求める陳情

8 議事の経過概要 別紙のとおり

調査の経過概要

○ **陳情第15号 市議会議員選挙と市長選挙を同日選挙とする為に市議会の自主解散を求める陳情書**

濱崎國治委員長

ただいまから、市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会を開会します。

濱崎國治委員長

この際、陳情第15号を議題とします。

本日は、先の委員会で決定したとおり、陳情者を参考人として呼び出していますので、陳情趣旨や意見を聴取します。

御出席いただいた参考人は林田弥生さんです。

それでは、入室をお願いいたします。

[林田参考人入室]

濱崎國治委員長

参考人に御出席いただきました。

参考人におかれましては、大変お忙しい中、本委員会の審査のため御出席いただき誠にありがとうございます。委員会を代表してお礼を申し上げます。

ここで、参考人に発言についてお願いがあります。御発言される際は、挙手していただき、委員長から誰々参考人と指名されてからお願いします。

また、委員会記録作成のために録音しておりますので、マイクを近づけて、マイクのランプが点灯したのを確認されてからお話しくくださるようお願いいたします。

それでは、参考人から陳情趣旨について説明がありましたらお願いいたします。

林田参考人

陳情書に書かれましたように、近年、阿久根市の選挙の在り方について市民の不満を耳にしておりました。その不満とは、僅か数か月の間に3回の選挙が行われる現状でございます。阿久根市が直接、全額の予算を使って行う市長選挙と市議会選挙が同日にできないかということであります。その同日選挙が可能となれば、経費削減と市民の注目が高まり、投票率が上がる可能性が期待でき、投票時の市民の負担を減らすことも期待できます。そして、選挙による市内事業者への経済的影響も軽減できます。この趣旨を理解していただいた市民の皆様に署名をいただいて、今回、提出させていただきました。今年度行われる市長選挙に合わせ、市議会は自主解散を行い、同日選挙が可能となるように強く求めるとともにお願い申し上げます。

濱崎國治委員長

参考人の説明が終わりましたので、質疑を行います。

質疑ありませんか。

竹之内和満委員

まず、陳情趣旨の中に選挙による市内事業者への経済的影響が軽減できると書いて

あるのですけれども。12月の市長選挙、翌年の4月の市議選挙と、通常ならばそうなのですが、それを12月に市議選を持ってきた場合、2回が1回になる、選挙が1回になるというのはあるのですけれども、12月というのは、いろんな商売をする方が一番忙しい時期なのですよね。だから、そこに一つに持ってきて、果たして経済的利益が軽減されるのか。4月はそこまではないような気がするのですが、そこ辺りはどうでしょうか。

林田参考人

現実に私も商売、飲食業をしておりますので、確かに12月に選挙があるということは、私どもの事業においてもかなり影響はございます。ただし、できればですね、本音で言えば、12月以外の月に持って行っていただければ、一番いいのではないかと思います。ただ、市長選挙に合わせるしか今回方法がないと思いますので、4月にもう1回また選挙があって、皆さんの外に出る機会が減るぐらいであれば、もう12月に、両方合わせて1回にさせていただいたほうがその影響は少ないと感じます。

竹之内和満委員

分かりました。次の質問に行きます。

署名が、1,100名以上の署名が集まっておりますが、署名活動を恐らくされたと思いますが、署名活動するときどのような声をお聞きになりましたか。陳情趣旨にもあるのですが、ほかにどういう声を聞かれたかなと思ひまして。

林田参考人

この陳情書に挙げた大きな3項目以外にもう一つよく聞かれた声が、これまで市議員をされていた方が途中で辞められてまで市長選挙に出られて、それで市長選に破れて、また、その次の市議員選挙にすぐ出られると。言い方は悪いですけど、市長選挙の滑り止めみたいな形の市議員選挙になっているということ、あんまりこれはいいことではないのではないかと、かなり聞かれました。私自身もそう感じておりましたけれども、署名をいただく中で、それではいけないですよという声はかなり聞かれました。

竹之内和満委員

了解しました。

それと、最後なのですが、陳情10号、11号、今まで2件の陳情が出ております。今回は3件目ということで、この3件の陳情者同士の連携は取れているのでしょうか。

林田参考人

団体名で一番最初出されていたかと思ひます。その団体のトップの方との連携はさほど密に取れていませんけれども、2回目の個人の方々、今回署名に、私だけじゃなくて、その2回目に個人で出された方々の協力もいただきながら署名活動をしました。その辺は連携が取れていると思ひしております。

白石純一委員

私が質問しようと思ひていたことは、今、1番竹之内委員がおっしゃったこととほぼ、その2番目の質問と重なるのですが、1,000名以上の署名をいただかれて、提出されたことは、非常に我々にとっても重く受け止めなければいけないと思ひしております。そこで、その1,000名以上の署名をいただかれる中で、ここに書かれている項目の中で、具体的に、署名をされる方が言われた言葉で、非常に林田参考人が印象に残っておられる言葉とか、すごく熱を入れて主張された署名の方がいらっしやるというような何か思い出されるこ

とがあれば、エピソードとして、お聞かせいただけることがあれば、何か御紹介いただけないでしょうか。

林田参考人

説明をするときに、経費が削減できますという話をしたときに、やはり皆さんがそうですよねという話が一番大きかったと思います。

後はそうですね、私個人的にもそうですけれども、年配の方が投票者には多いと思います。うちも両親を抱えております。選挙に行くのに連れて行かないといけません。体が不自由な方もいらっしゃる時に、今回であれば3回連れて行ったり来たりしないといけないわけですよ。そうすると、もう時間的な余裕がないときには、選挙に足が運べないといった状況も起こると思います。ですから、なるべくその労力といえますか、それを一つにまとめていただいて、そこに集中して、市長選挙も市議員選挙も。考えることは同じだと思いますので、そこを、要領を1回で終わらせていただくというような形を望まれているっていう声を私も聞きましたし、私自身もそう思っていました。

白石純一委員

よく分かりました。

もう一つですね、参考人も御商売されていて、選挙期間中だとかなり御自身の御商売には影響があつて、お客さんが減るというようなことは顕著なのでしょうか。

林田参考人

国会議員の選挙のときは、そこまで影響はございません。ただ、市議員選挙、市長選挙のときは、やはり、人の出がかなり減ります。

白石純一委員

参考人が考えられるその理由というのは、どんなことなのでしょう。

林田参考人

相当昔はですね、選挙違反の形があまり厳しくなかったときには、皆さんたちに、逆に飲ませたり、食べさせたりしてということが多かったようなので、昔の選挙のときにはにぎわっていた、逆にですね。今はもう、とてもそこが厳しくなっておりますので、かえってその疑いをかけられたくないという方々が多いと思います。なので、本当はそういう意味ではなくて、飲みに行ったり、食べに行ったりしたいのですけれども、疑われることが嫌なのでもう出ないという方が増えてるという現状ではないかと思っております。

白石純一委員

よく分かりました。ありがとうございました。

濱之上大成議員

どうも御苦労さまでした。

別のサイドで少し確認をしたいと思うのです。このコロナ禍で、本当に署名活動大変だったと思うのですが、これ全部で、調べましたら1,104名。そのうち14名が重複しているのです。と同時に、直筆でないような方も結構いらっしゃるのですが、この名簿はしっかり確認されましたか。

林田参考人

すいません。逐一、全部、確認できてなかったと思います。私関係で集めたものが約850。あとほかに、脇本方面の方で協力いただいた方のやつが250。特にその250のほうは、

ぎりぎり24日当日に持ってきていただいた件もありまして、きちんと確認はできていなかったかと思います。

濱之上大成委員

今回ですね、お気持ちは十分、分かります。ただ、市長選挙を見据えると40日以内に決定しないとイケない。となると、11月8日以降に臨時議会をしないといけないのです。そうしたときに、有権者が、推定したときに3分の1という5,516人必要なのですね。

そこで今、参考人の準備された署名は1,089名、私の数えたところ。コロナ禍で大変だったと思うのですけれども、まず御理解いただきたいのは、時期的に、最終的には議員が決めることなんです。同時解散、選挙となると11月以降に決定しておかないといけないということを御理解いただいて欲しいと思っております。質問はありません。

牟田学委員

先ほどの4番委員の質問でもあったように、市長選と同日選挙になれば経費が削減できる。それはそうだと思うのですけれども。署名された方から話を聞けば、同一選挙であれば2,000万円ぐらい減るのだよとかそういう話が出ております。そこで、参考人としては、正しい金額、それはどのように考えていらっしゃいますか。

林田参考人

経費の金額については、それほど重要なことだとは考えておりませんでした。金額も正確には私は存じ上げていません。千何百万円ぐらいは減るのではないかという話は聞いていますけど、申し訳ないです。詳しくそこまでは調べておりません。ですから、署名を求めるときにも、これだけ減りますからどうしようというお話は一切しておりません。経費の削減、2回選挙があることが1回になることでかなり経費が削減されますよねという話はしても、金額の話はしておりません。

牟田学委員

今、参考人がそうおっしゃいますけれども、ただ、その署名活動の中で、2,000万円だとか、1,500万円だとか、その話が出回って、それであればそうだよとかいうような話を、署名された方から私も聞いたことがあるのですよ。だから、いたずらに金額だけが先に動いて、そういうあれもあったのかなと思っております。私たちも議会の中で、選挙管理委員会等の調査もして、約600万円というのが、今、出ております。ただ、知らない市民の方は、そんなに経費が減るのであれば、それは署名しないとイケないというのもあったのかなと僕は思っております。

山田勝委員

こんなにたくさん、署名も集めていただいたということは、大変だったと思いますよ。しかし、この中を見ていると、私の知っている、この方は僕の支持者だったのにな、私の身近な人だったのになという人もたくさんおります。それはもう別に構わないですよ。書いてくれと言われれば、書かない訳にはいかないですよという人もいますから。それは別にいいですよ。ただ、私たちこの一つずつ、聞いて。例えば、選挙に何回も行かないとイケないのが1回でいい。という話をされるようですが、私は、選挙管理委員会に、このままでは選挙の投票率がものすごく下がりますよ、今は。下がる理由は、お年寄りが行きたいけれども行けない人がたくさんいらっしゃいますよ。それと昔は、施設に入所していらっしゃる方々というのは、その施設の人が一生懸命になる

人がいたら、もう全部、AならAという人に行く、BならBという人に行く。そんな時代もありましたよ。ところが今は、施設にいる人も、自分でやりたい、投票しますよという意思を示さないと投票させない時代なのです。だから、もう毎年毎年、回数ごとに投票率は下がっていくと思います。ですから、先の委員会の中で、選管の職員にも言ったんですが、期日前投票の場所を増やしてくれと。例えば、鶴翔高校でも今年はやるそうです。鶴翔高校でもやれない話ではないはずでしょうと。あるいは、各集落の公民館を1時間ずつ、バスをつくっているということだから、バスで1時間ずつ回るとほとんど拾えると思いますよ。だから、例えば投票率を上げるということについては、そういう努力を私たちもしないといけないし、選管事務局も選挙管理委員会の方もしないといけないということをこの前、要望をいたしました。

それからもう一つ、同日選挙。昔は同日選挙でした。ところが、途中で市長が亡くなりました。もう同日選挙がなくなったわけですよ。今度は、国立病院再編計画で、現在の国立病院がいいですよと言って、勇気を持ってやった人たちは落選させられて、反対運動した人たちが勝って、議会を全部解散しました。でも、現実には、あのときの議会の結論が、阿久根市の医療過疎をなくした、阿久根の医療を守ったという、そういう非常に重大な役割も果たしてきているのですよ、議会は。

ただ、私は、今回思っているのは、非常に難しいですよ。でも、法律に基づいてやっていくことですからね、どれも、どれも、法律に基づいて。議会だけが簡単にできるわけじゃないのですよ。それは、だから、議会じゃなくて市長に、市長が辞めてくださいと、市長を辞めさせることも、そういう陳情を出されてもいいのですよ。そうしたら同時に選挙する方法があるのです。

ただ、私、今回、これほど議会が注目を浴びたことはうれしいことなのです。議会が身近な、阿久根市の議会は非常に身近ですよ、皆さんそのように。そういう意味では有り難いことですよ。あわせて、議会にこれだけ注目していらっしゃる、特に林田さんなんかは、もう本当にリーダーとして立派な方ですよ、やはり。何でかって。市会議員というのは専門職でなくてもいいのですよ。自分の仕事をしながらでいいのです。商売しながらでいいのです。県会議員なんかはそう行きませんよ。1,000万円を超える報酬をいただいて。毎日、専念してないといけないぐらいの人なのですよ。地元を回って、回って、回って。でも、私たちは見たことがありません。でも、そういう意味では、阿久根市議会にこれほど興味を持ってくださるこのときに、どうかひとつ林田参考人、次の選挙には、あなた方の代表を出してください。あなた方の代表を。選挙に出してくれなければ、始まらないのですよ。選挙に出してくれないと。だから、もう僕だけしゃべって。もう答弁も何もいらませんが。ただ、私がお願いしたいのは、皆、この陳情を出された方々は優秀な方ばかりですよ。ただ、そういう方々が選挙に立候補して、阿久根市をよくして欲しいという願いをして、私の意見を終わります。

濱崎國治委員長

今のは御意見でいいですか。

山田勝委員

いや、何か答弁したいことがあればしてください。

濱崎國治委員長

林田参考人、今の御意見に対して何かございましたらお願いします。なかったらそれ

でいいです。

林田参考人

確かに、私どもの仲間といいますか、今回の署名活動で動く中の仲間の中でも、大変強い志を持っている方もいらっしゃるので、市会議員選挙にぜひ出ていただきたいと思って、勧めている方もいらっしゃいます。ただ、あとは御本人を説得して、どうなるかは分かりませんが、やはり、議会の中もいろんな方々に入っていて、変わっていくということも大変いいことではないかと思っておりますので、次の選挙になるべく新しい方が出ていただけるように、私も努めたいと思っております。

山田勝委員

今、あなたがそういうことを言っていて、私は心強く思っているのです。ですから、何遍でも言いますが、市会議員は専念しなくてもいいのですよ。専念しなくてもいいです。年俸400万円そこそこでは生活できないわけです。だから、皆さんそれぞれ仕事を持ちながらですね、それで自分の周りにあることを議題に合わせ、それで身近な人の気持ちを聞いたり、あるいは身近な意見を聞いて、議会で発表すればいいわけですね。ですからそういう意味では、本当に身近な議員ですよ。ですからぜひ、あなたの方の同士の方々を立候補させてください。そして、新しい、いい阿久根をつくってください。よろしくお願いします。

濱崎國治委員長

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、最後に参考人からございますか。

林田参考人

今回の陳情におきまして、もし同一選挙が可能となった場合は、市会議員の方におかれましては、数か月分の給料がいただけなくなるという現状が起こります。ただ、この自主解散に賛同していただくことは、議員の方にとっても大変な決断だと思っておりますけれども、市民の声を聞いていただいて、市民の皆さんの代表であるということを考えていただいて、熟考していただければと思います。よろしくお願いします。

山田勝委員

議員の報酬が4か月分。そんな気持ちをいう人は一人もいませんよ。失礼ですけどね。そんなことはない。だから、新しい人が出てくれて、それで私はこんな阿久根市をつくりたいんだ。こんな阿久根市をつくりたいのだという人が出てきて、やってくれないといけないと思います。ですから、ぜひ、あなたたちが次の阿久根市をつくるように、努力をして、頑張ってください。

濱崎國治委員長

以上で参考人への質疑を終了いたします。

それでは私からお礼申し上げます。参考人におかれましては、大変お忙しい中、御出席いただきましたことに心から感謝申し上げます。

本日お伺いしたことを、今後の審査に生かしてまいりたいと思っております。

誠にありがとうございました。

それでは、どうぞ退室してください。

〔林田参考人退室〕

- **陳情第10号 阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情**
- **陳情第11号 市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情**
- **陳情第15号 市議会議員選挙と市長選挙を同日選挙とする為に市議会の自主解散を求める陳情**

濱崎國治委員長

この際、陳情第10号、第11号及び第15号を一括して議題とします。

この3件の陳情については、陳情者を参考人として呼び出して意見聴取を行い、選挙管理委員会事務局に出席を求め、選挙制度について質疑を行いました。

これ以外の審査方法について、御意見があったらお願いをいたします。

御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかの審査方法の御意見がございませんので、本件については、討議、討論、採決に進みたいと思います。

- **陳情第10号 阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情**

濱崎國治委員長

それでは、陳情第10号について採決に入ります。

まず、討議に入ります。

討議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、討論に入ります。

討論ありませんか。

濱之上大成委員

今回のこのことは、コロナ禍によって、弊害が原因の一つかもしれないわけですが、これまでの陳情10号、11号に関しても、各陳情者代表の方々の陳情書の、まず最初の6月7日の最初の提出のずさんさ。さらには陳情趣旨の内容。各代表と言いながら各界の意見の集約もありませんでした。裏を取ってみると他人任せ的な行動。さらには、人に求める言葉でもない自主解散の要求。言い方を変えますと市民に投票行動の配慮を求めるかのような自主解散の要望等がありました。誠に私自身、個人的ですが、義憤、やるかたないとともに、残念無念で情けない、みじめな思いであります。心情倫理的に置き換えますと、6月3日のスタート時期は、議員の中の約13人ぐらいは自主解散は無理だという状況の中で、現在どのように変化してきているかは、私は分かりません。

しかしながら、こういう状況でありながらも、やはり個人的には反対と言わざるを得ないというふうに思う一人であります。

白石純一委員

当初より、私は、同日選には賛成だったのですが、おっしゃる議員の中には、難しい

のではないかという声も多くございました。確かに容易ではないと私も思っております。ただし、その後3件の陳情があり、そのうちの一つは1,000名を超える署名も添付されておりました。陳情は陳情として、我々は、その背景がどうであろうと、やはり陳情が正式な手続として議会に出された以上、その陳情をしっかりと審査しなければなりません。この3件の陳情をいずれの方の参考人の実際の御説明を聞くに当たっても、非常に重い市民の意見だなということを強く受け止めました。

したがって私は、これらの陳情は、それぞれ採択すべきものと考えて、賛成ということに討論させていただきます。

中面幸人委員

私も、3件の陳情について採択のほうで討論をやりませうけれども。

私たちは、市民から負託を受けて議員になっております。それぞれ、今、現在の議員の方々のそれぞれの思い、考えはあろうかと思いますが、今回1,100名ぐらいの署名をもらって陳情がなされておられますけれども、私から見れば、ほとんどの市民の方がこの3件の陳情通りの考えではないかと私は思っておりますので、私たちは。

濱崎國治委員長

中面委員。今、10号について。10号は各種団体から出たものです。

中面幸人委員

採択（訂正あり）で、お願いしたいと思っております。先ほどから同じようなことを言っておりますけれども、私たちは、市民から選ばれた議員ですので、市民の方々がそういう思いであれば、採択すべきかなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

濱崎國治委員長

中面委員どちらですか。採択ですか、趣旨採択ですか。

中面幸人委員

採択と言ったではないですか。

〔発言する者あり〕

濱崎國治委員長

採択なんですね。

〔中面幸人委員「採択です」と呼ぶ〕

はい。分かりました。

白石純一委員

すいません。私は3件の陳情に対する討論と勘違いしておりました。

団体の方々の陳情についてということであれば、阿久根市を代表する団体の方々の陳情は、その重みがあると思います。その組織内でどういう手続が行われていたかはそれぞれの団体のことでありまして、我々は陳情として受け止めるしかないわけですので、これは、私は採択すべきと考えております。

濱門明典委員

団体の陳情ということでもありますけれども。非常に、やはり我々阿久根市議会議員を試されて、気持ちとかそういうものもあろうかと思っておりますけれども、市民の方が、こういう形で陳情が上がるということは、もしできるのであれば、経費削減とかいろいろなものが書かれていますけれども、そういうのであれば、我々が自主解散して、本当、できるのであれば、採択すべきではないかと思ひます。

木下孝行委員

今回、10号についての採択をするのですけども、11号も15号も、私はあわせて判断したほうが良いとは思いますが。

ただ、今、10号ということですので、10号について判断をしますけど、10号、11号に載っている代表者の方も15号の署名に署名をしていただいております。

そういった中で判断するには、やはり私ども議会は、何の根拠もなく、理由もなく、自主解散をする瑕疵もない中で、自主解散をするということは非常にあってはならないこととは思いますが、今回の陳情の趣旨と署名、この活動と署名を出した人たちの考え方、そして行動は重く受け止めなければいけないものだと思いますので、私は採択すべきだと思います。

濱崎國治委員長

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、討論を終結いたします。

それでは、陳情第10号、阿久根市議会議員選挙を阿久根市長選挙と同日に実施することを求める陳情を採決いたします。

本陳情は、起立によって行います。

採択すべきものと決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立多数と認めます。

よって、本陳情は採択すべきものと決しました。

○ 陳情第11号 市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情

濱崎國治委員長

それでは、次に、陳情第11号について採決に入ります。

まず、討議に入ります。

討議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討議がないようですので、討論に入ります。

討論ありませんか。

白石純一委員

この陳情は、個人3名の方々からの陳情ですが、参考人として御出席いただき、お話を伺うに当たり、大変皆さん、心からこの陳情を市民のほかの方にもお伺いされた中で、自分たちが代表として名のり上げたいと、陳情として名のりを上げたいということで3名が陳情されておるようです。

我々も、陳情の趣旨は重く受け止めなければならないと思いますので、私は採択すべきだと思います。

仮屋園一徳委員

私は採択すべきものということで、発言をいたしますが。陳情10号については6月8日に提出されましたので、その時点では、1年以内になってから何でこういった陳情が

出てくるのかなと。もう少し早ければよかったのという思いでありました。その理由としては、一番大きな理由は、この次に議員選挙に立候補しよう、あるいはしてみたいと思われる人が、1年を切ってから、しかも今から採決ということになれば、半年あるいは2～3か月の間に決めないといけないということで、非常に無理ではないかということで、私は、陳情陳情10号については反対でしたけど、この11号については、陳情者を呼んで話を聞きましたところ、今、もし予定されている人が、期間が足りないんじゃないですかという質問をしたところ、いや十分ですよというふうに言われましたので、これについては、賛成したいと思います。

中面幸人委員

陳情11号については、採択に賛成です。討論の内容は10号と一緒です。

濱門明典委員

陳情者、若い3名が来られて説明を聞きました。すごい熱意のある意見を聞けることができました。本当、こういう気持ちで阿久根を変えていこうということで、市議会への問いかけでございますので、採択でよろしくをお願いします。

濱崎國治委員長

ほかに討論はありませんか。

反対討論はないんですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、陳情第11号、阿久根市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とするために行う市議会の自主解散を求める陳情を採決いたします。

本陳情は、採択することに御異議ありませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

御異議がありますので、起立により採決を行いたいと思います。

本陳情は採択すべきものと決することに賛成の方、御起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数により、本陳情は採択すべきものと決しました。

○ 陳情第15号 市議会議員選挙と市長選挙を同日選挙とする為に市議会の自主解散を求める陳情

濱崎國治委員長

それでは、陳情第15号について採決に入ります。

まず、討議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討議なしと認めます。

次に討論はございませんか。

白石純一委員

当陳情に対する参考人の熱いお気持ちも伺いました。また、1,000名以上という、確かに署名活動としては完璧なものでないのかもしれませんが、1,000名以上の署名を集められたと。また、署名に参加されていない方々の市民の意見を聞いても、かなり、ほとんどの方が同日選に賛成をされているということを私自身は感じておりますので、こちらについても採択に賛成します。

中面幸人委員

陳情15号について、採択に賛成です。討論内容は、10号、11号と一緒にです。

濱門明典委員

署名（訂正あり）を取るとというのが、非常に、厳しい大変なことだと思うのですよ。思いがなければ署名（訂正あり）も取れないですよ。

〔発言する者あり〕

署名ですね、署名。署名を取るとというのは、本当の思いがないとなかなか難しいことで、この勇気とかそういうのを思いますと、採択でよろしくをお願いします。

山田勝委員

反対の討論をいたします。

市民のほとんどの人がそうだという話をされるでしょう。そんな話は絶対ないです。私がどうですかと聞くと「そんなのはお前たちが決めなさいよ。だからお前たちに、議員になってもらっているのだから」という話をする人がほとんど多いですよ。

それからすると、やはり私は、議員としての責任を果たさないといけないという気持ちもあるので、反対をいたします。

木下孝行委員

私は、10号で話をしたみたいに、大変この署名活動は重いものだと判断をいたします。その理由としては、このコロナ禍の中で、大変短い時間に対して1,100筆でございませうけれども。仮にリコールという形を、大分早い時期から進めておられたとすれば、確実にリコールになったのではないかなと私は思います。その理由とすれば、私もこの短い間に、市民の方からこういった署名活動が始まっているけども、私のところにはその署名の書類が全然来ないということも多くの方から聞いております。そういった意味では、今回陳情出された方々はなかなかコロナ禍の中で動きづらかった。そういった大きな理由もあったのだらうと思います。

そういったことを踏まえ、我々は確かに議員として、何の瑕疵もない、悪いこともしていない中で、自主解散をするということは苦渋な決断だと思いますけれども、これは市民の大きな声だということで、重く受け止めていくべきだらうと思って、採択に。皆さんよろしくをお願いします。

濱崎國治委員長

ほかに、討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

陳情第15号について討論を終結いたします。

それでは、陳情第15号、市議会議員選挙と市長選挙を同時選挙とする為に市議会の自主解散を求める陳情を採決いたします。

本件は、起立により採決いたします。

本陳情を採択すべきものと決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立多数と認めます。

よって、本陳情は採択すべきものと決しました。

以上で、本委員会に付託された案件は全て議了しました。

本日、採決いたしました案件についての委員会審査報告書の作成及び委員長報告並び

に議会だより原稿の作成につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員会を閉会いたします。

(閉会 午前10時48分)

市議会議員選挙の実施時期に関する調査特別委員長 濱 崎 國 治